

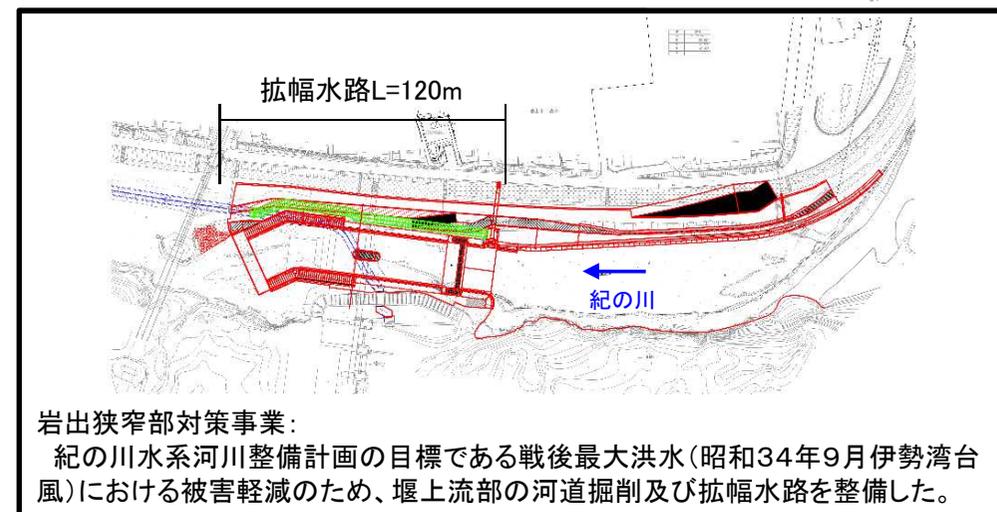
● 景観形成の目標像

隣接する歴史的建造物(「巖出御殿」跡地)や周辺の自然環境と調和する水辺空間



① 施設や空間の規模・形状・配置等の設定の考え方

施設の配置箇所は、高水敷と既設の岩出頭首工に挟まれた空間であるが、**周辺の自然環境との調和を図るため、コンクリートの表面に凹凸をつけることで明度を下げた。**



(事業前)



(事業後)



①

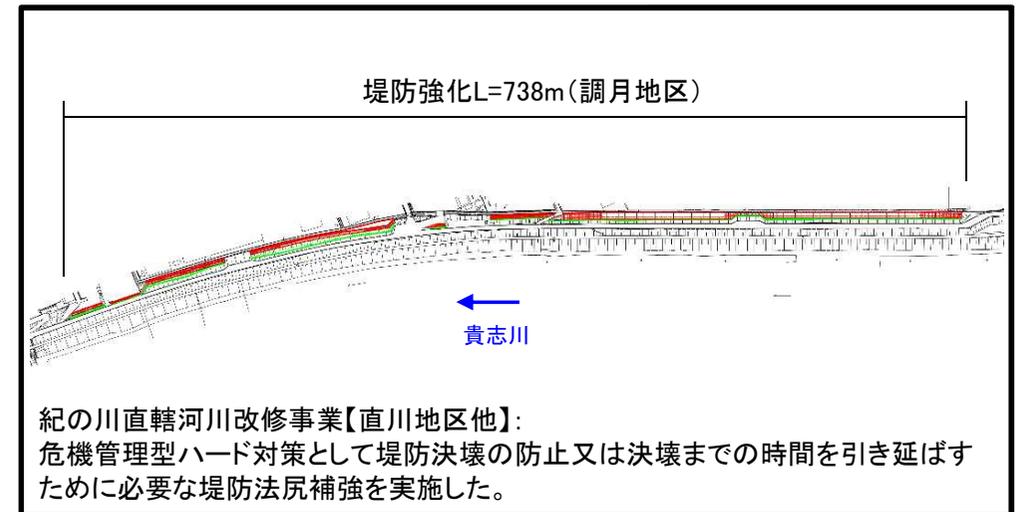




● 景観形成の目標像 周辺の風景と調和を図る

① 施設や空間の規模・形状・配置等の設定の考え方
現況の河川景観として、田畑と堤防法面の風景が一体となった景観を形成していることから、法尻補強が整備された後も**周辺の風景要素と極力調和させる**。

② 細部設計、材料等の選定の考え方
周辺の景観に極力影響を与えないようにするため、明度の低い物を利用する、凹凸をつけるなど可能な限りドレーン工表面の模様に配慮した。



(事業前)



(事業後)



①



②



● 景観形成の目標像

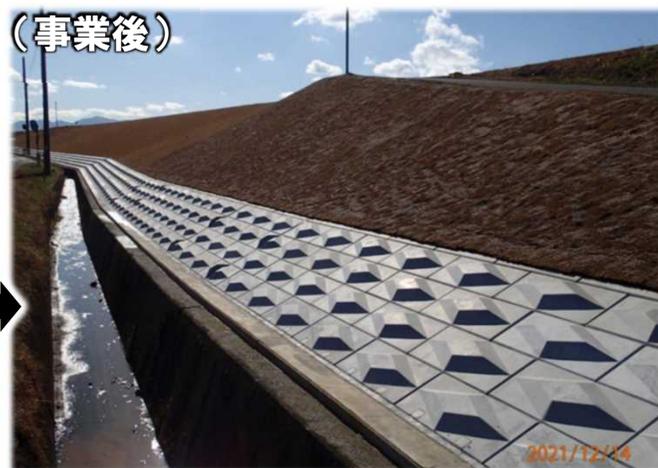
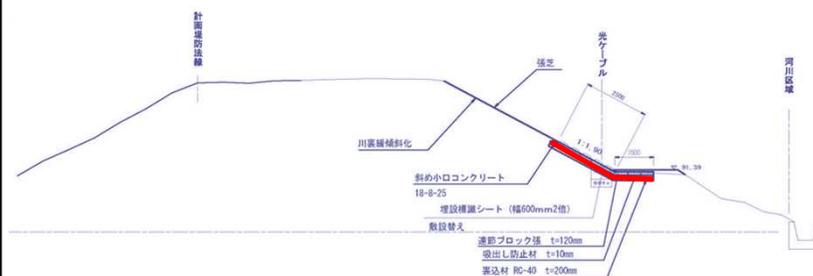
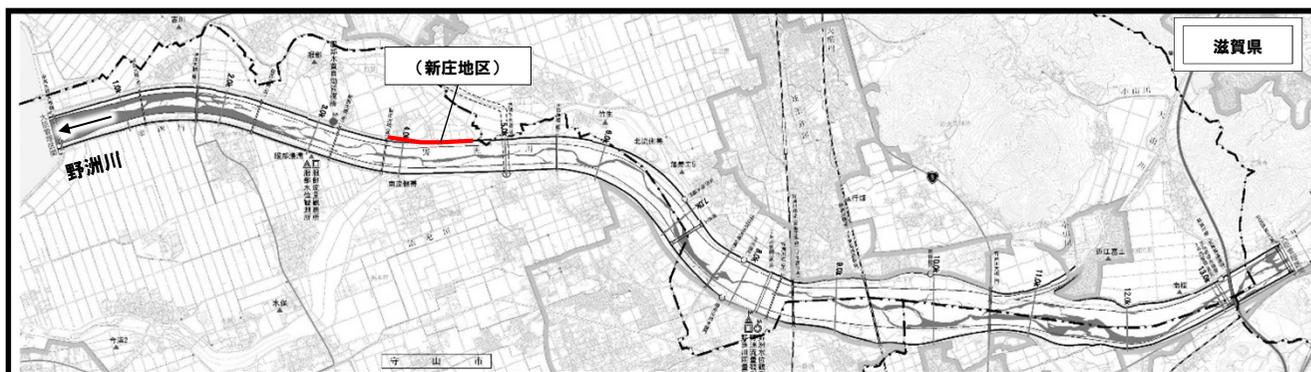
周辺の自然景観との調和

① 施設や空間の規模・形状・配置等の設定の考え方

景観衛星の方針(河川景観軸)の形態意匠要素を踏まえて、法尻保護工を施工する場合は、周辺の自然景観と調和した高さにするとともに、比良・比叡の山並みや三上山の眺望に影響がないことを確認する。

② 細部設計、材料等の選定の考え方

景観形成の方針(河川景観軸)の色彩要素を踏まえて、法尻保護工については塗装を施さず、経年による変化で周囲となじませる。



● 景観形成の目標像

周辺の風景と調和を図る。

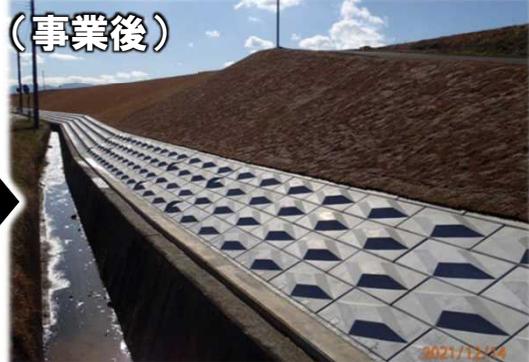
① 施設や空間の規模・形状・配置等の設定の考え方

周辺には住宅地があり、設置により圧迫感を与えないよう、周辺環境と調和を検討する。

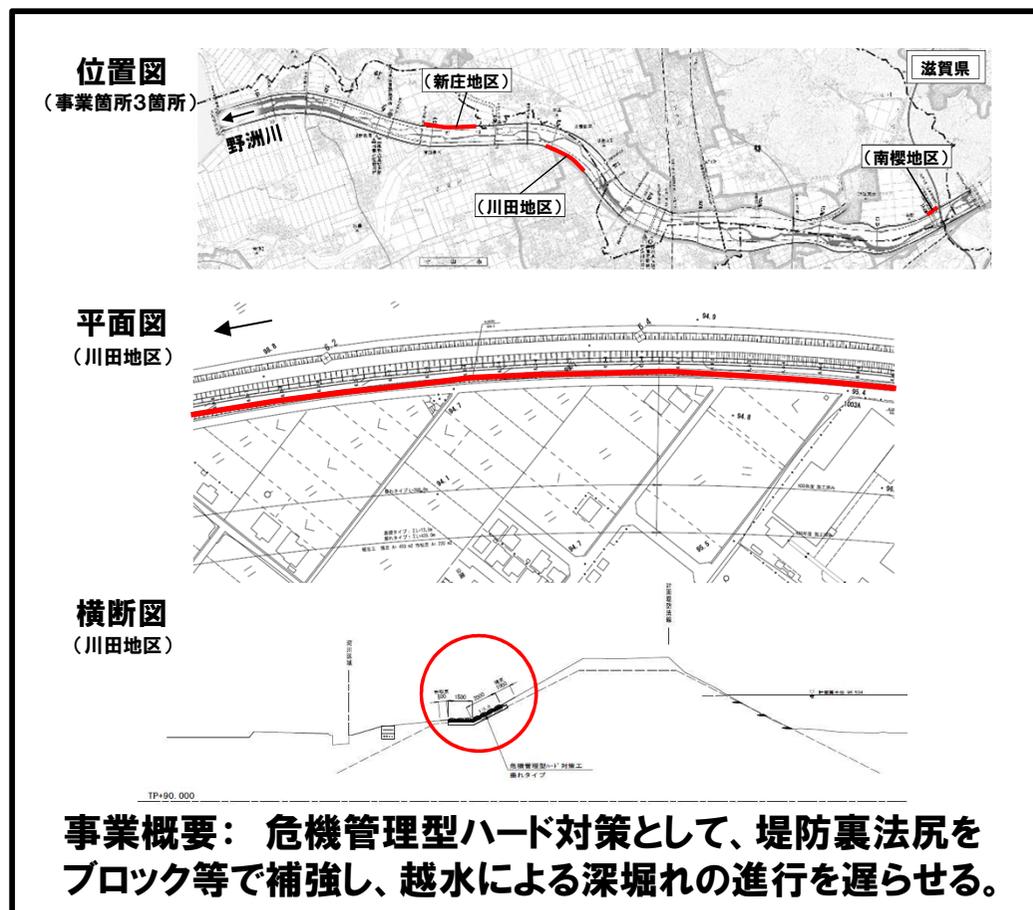
② 細部設計、材料等の選定の考え方

周辺環境との調和を図るため、裏法尻補強の材料については、可能な限りコンクリート表面の模様性に配慮した材料を使用する。

新庄地区



川田地区



南櫻地区



●景観形成の目標像

周辺の風景と調和を図り、自然景観の保全に努める。

①施設や空間の規模・形状・配置等の設定の考え方

周辺景観との調和を図るため、護岸法線を従前の河岸法線とし、護岸端部は蛇籠とする。

②細部設計、材料等の選定の考え方

護岸工の材料について、高水敷部のかごマットおよび護岸端部の蛇籠については、自然石を用いる。

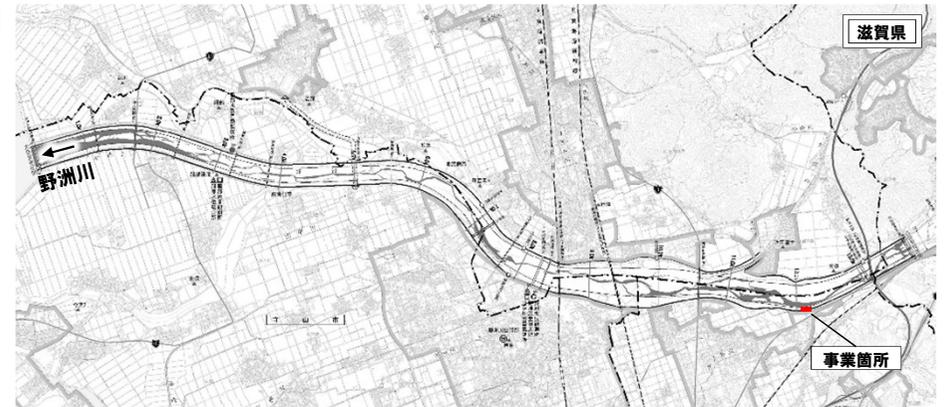
（事業前）



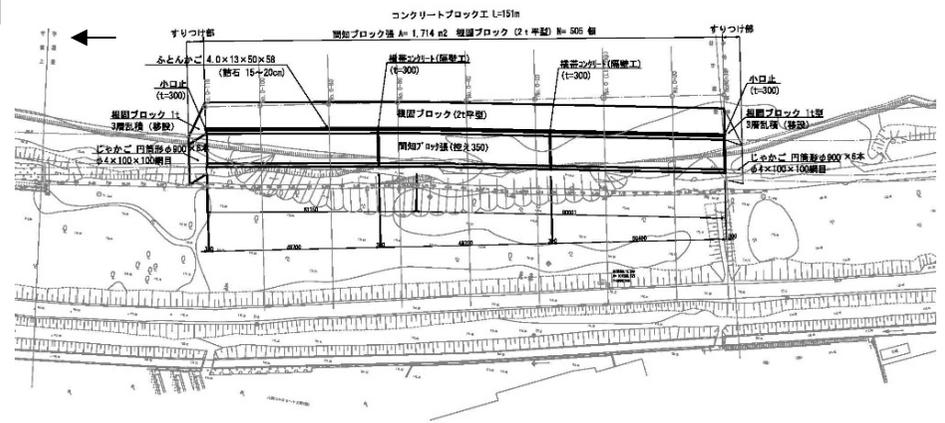
（事業後）



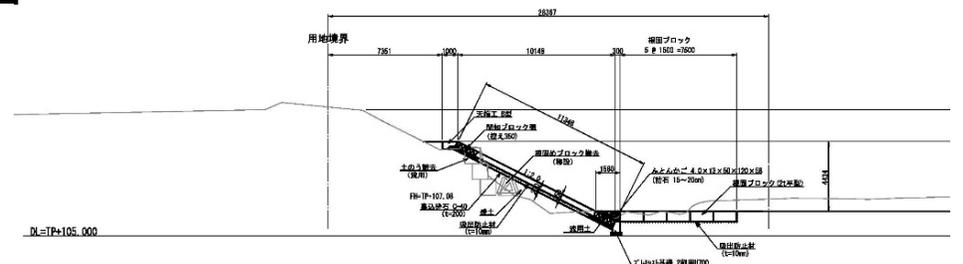
位置図



平面図



横断面図



事業概要： 被災した低水護岸の復旧 護岸工L=151m₅

● 景観形成の目標像

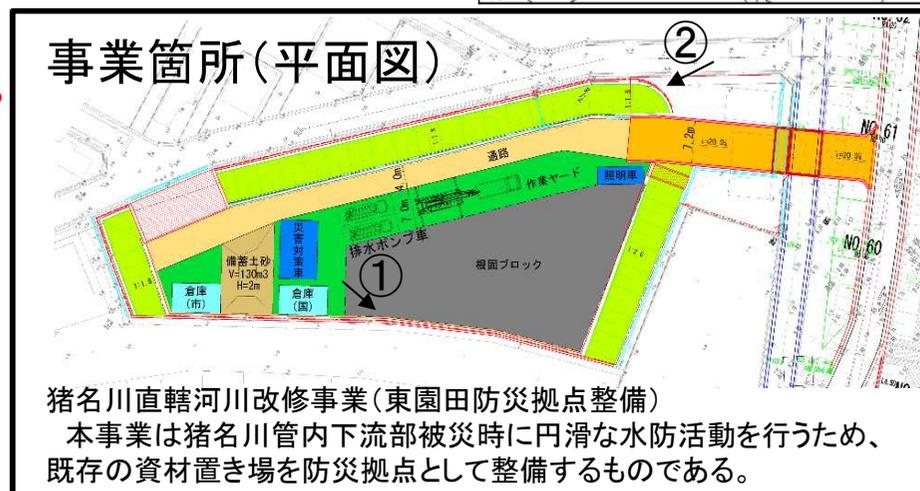
猪名川自然林と東園田防災拠点が調和した空間の形成。

① 施設や空間の規模・形状・配置等の設定の考え方

隣接する猪名川自然林をできる限り保全し、防災拠点が自然景観となじむよう、フェンスに景観色を取り入れ整備した。

② 細部設計、材料等の選定の考え方

隣接する住宅に対する圧迫感を軽減させるため、住宅側の盛土法面構造は土羽を緑化し整備した。



(事業前)



(事業後)



●景観形成の目標像

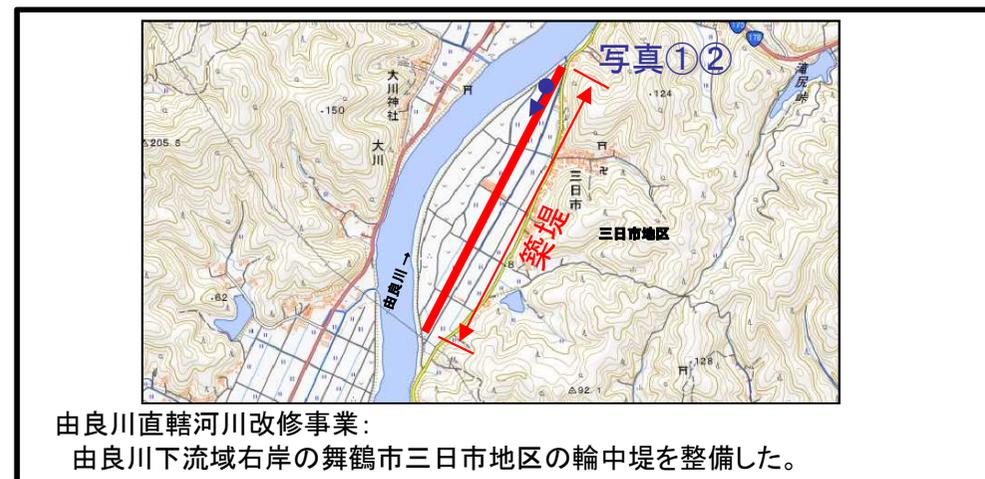
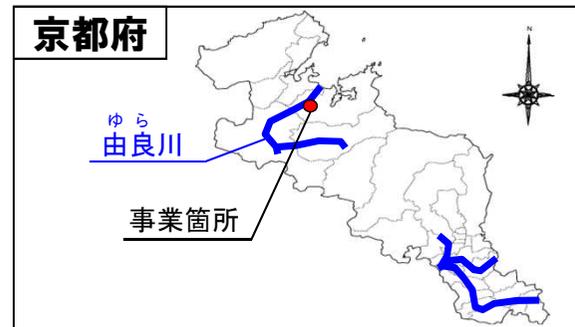
山間部の自然河川および周辺の自然景観と調和した空間

①施設や空間の規模・形状・配置等の設定の考え方

事業前の河川景観は田畑や河畔林の緑が一体となった景観を形成していることから、堤防が整備された後も周辺の緑の要素と調和させるため、堤防法面の緑化を行った。

②細部設計、材料等の選定の考え方

堤防法面を緑化するため、連節ブロックの覆土型を採用し、周辺の緑(河畔林、小堤の緑、田畑)と一体化させた。



由良川直轄河川改修事業：由良川下流域右岸の舞鶴市三日市地区の輪中堤を整備した。

(事業前)



(事業後)



① ②



● 景観形成の目標像

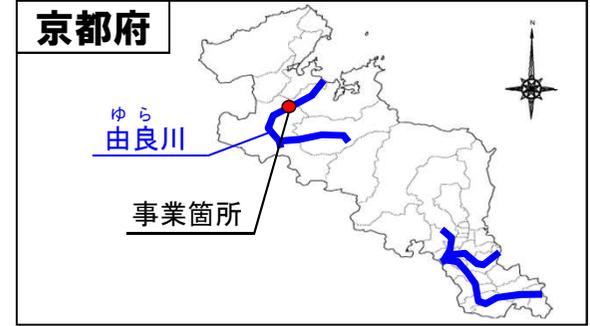
山間部の自然河川および周辺の自然景観と調和した空間

① 施設や空間の規模・形状・配置等の設定の考え方

事業前の河川景観は田畑や河畔林の緑が一体となった景観を形成していることから、堤防が整備された後も周辺の緑の要素と調和させるため、堤防法面の緑化を行った。

② 細部設計、材料等の選定の考え方

堤防法面を緑化するため、連節ブロックの覆土型を採用し、周辺の緑(河畔林、小堤の緑、田畑)と一体化させた。



(事業後)

(事業前)



① ②



● 景観形成の目標像

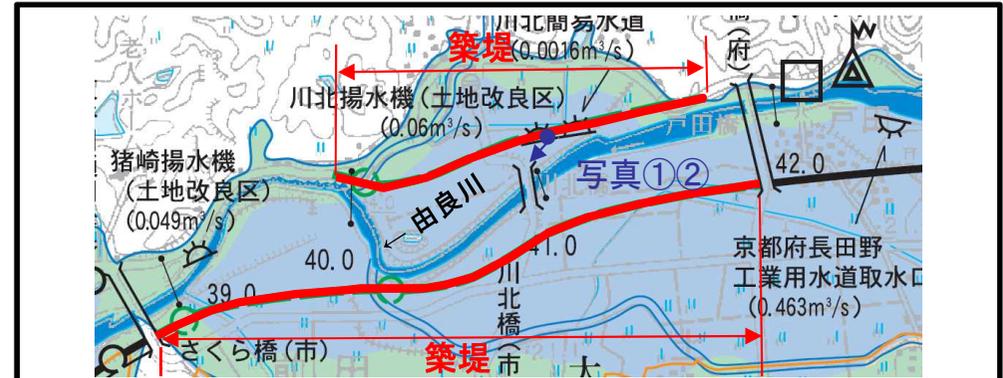
山間部の自然河川および周辺の自然景観と調和した空間

① 施設や空間の規模・形状・配置等の設定の考え方

事業前の河川景観は田畑や河畔林の緑が一体となった景観を形成していることから、堤防が整備された後も周辺の緑の要素と調和させるため、堤防法面の緑化を行った。

② 細部設計、材料等の選定の考え方

堤防法面を緑化するため、連節ブロックの覆土型を採用し、周辺の緑(河畔林、小堤の緑、田畑)と一体化させた。



由良川直轄河川改修事業：
由良川中流域の福知山市戸田、川北、前田地区の築堤を整備した。

(事業後)

(事業前)



① ②



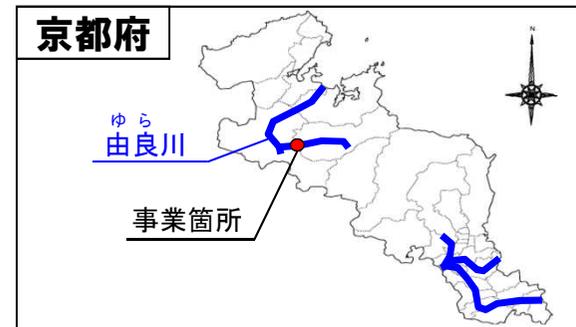
●景観形成の目標像
周辺の自然景観との調和

①施設や空間の規模・形状・配置等の設定の考え方
盛土造成部分の端部については近傍に住家もあり圧迫感を少なくするため、法面形状案を採用し、植栽・法面緑化も行った。

②細部設計、材料等の選定の考え方
管理棟外観は、農村風景に違和感なく馴染むイメージとするため、シンプルな機能美で周辺景観になじむ「切妻屋根」とし宅地環境との調和を図った。

(事業後)

(事業前)



由良川直轄河川改修事業：
由良川中下流における防災拠点を福知山市戸田地区に整備した。

①



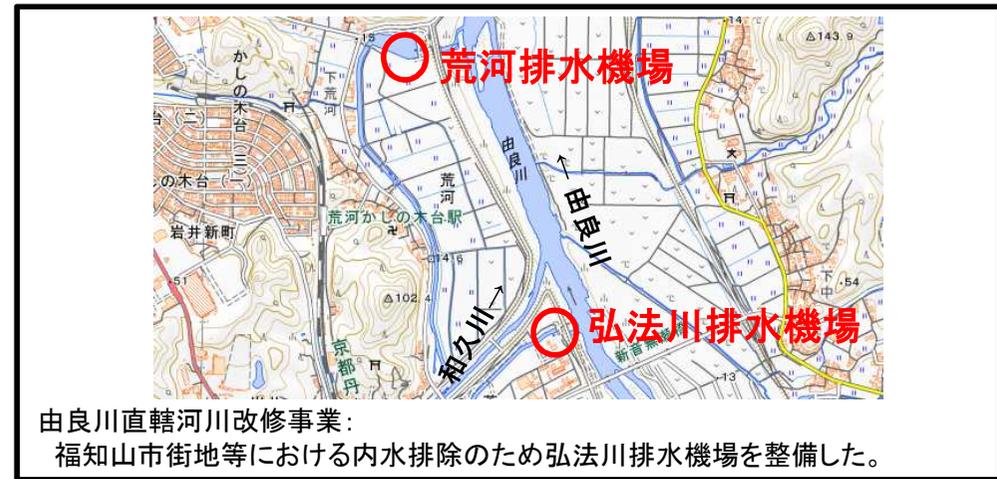
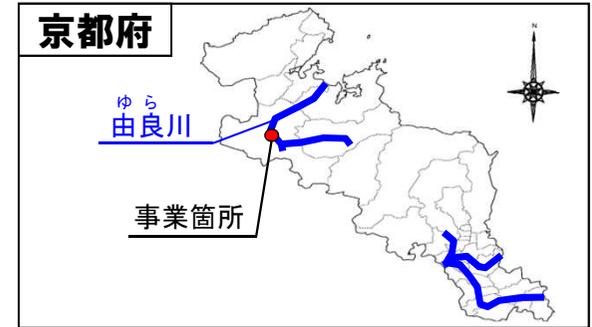
②



●景観形成の目標像
周辺の自然景観との調和

- ①施設や空間の規模・形状・配置等の設定の考え方
- ②細部設計、材料等の選定の考え方

既存建屋が存在する元の景観を保全するため、新しい建屋は形状・色彩等を既存建屋と同等にし既存建屋との一体性を図った。



(既存建屋)

弘法川排水機場



(新建屋) ① ②



(既存建屋)

荒河排水機場



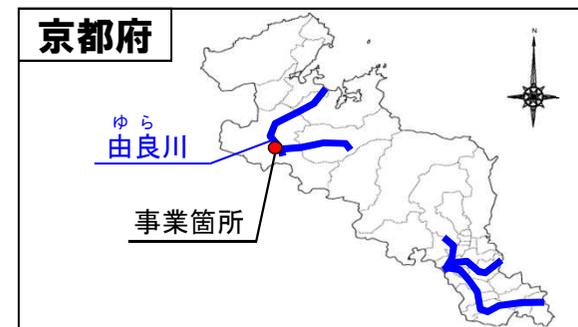
(新建屋) ① ②



● 景観形成の目標像
周辺の景観との調和

- ① 施設や空間の規模・形状・配置等の設定の考え方
- ② 細部設計、材料等の選定の考え方

既存建屋が存在する元の景観を保全するため、新しい建屋は形状・色彩等を既存建屋と同等にし既存建屋との一体性を図った。



由良川直轄河川改修事業：
福知山市街地等における内水排除のため法川排水機場のポンプ増強を実施した。

(既存建屋)



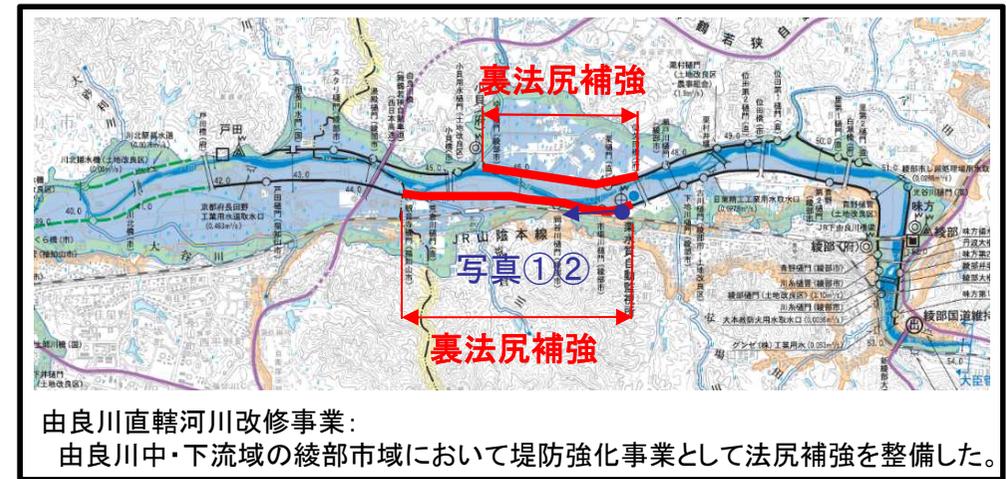
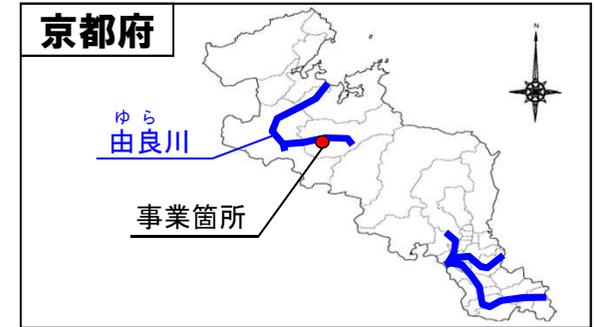
(新建屋) ① ②



● 景観形成の目標像
山間部を流れる河川景観の保全

- ① 施設や空間の規模・形状・配置等の設定の考え方
- ② 細部設計、材料等の選定の考え方

周辺の景観に極力影響を与えないようにするため、裏法尻補強の材料について可能な限りコンクリート表面の模様に配慮した。多孔質コンクリートブロックを採用することで表面の陰影により明度を下げ、自然堆積した土壌に飛来した植物類の発芽が期待できる。



(事業前)



(事業後)



(ブロック拡大)



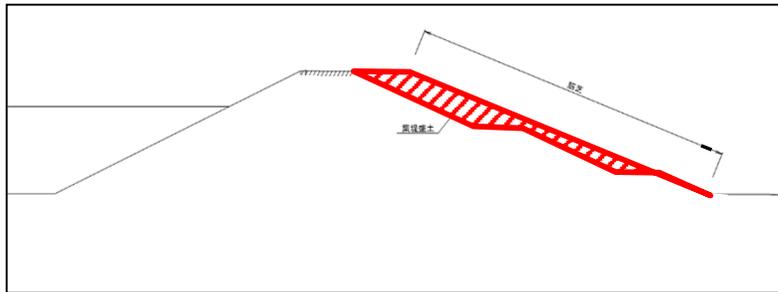
●景観形成の目標像

山間部の自然河川および周辺の自然景観と調和した空間

①施設や空間の規模・形状・配置等の設定の考え方
 事業前の河川景観は田畑や河畔林の緑が一体となった景観を形成していることから、堤防が整備された後も周辺の緑の要素と調和させるため、**堤防法面の緑化を行った。**

②細部設計、材料等の選定の考え方
 盛土箇所は見た目の安定感を持たせるため、**一枚法とした。**

標準断面図

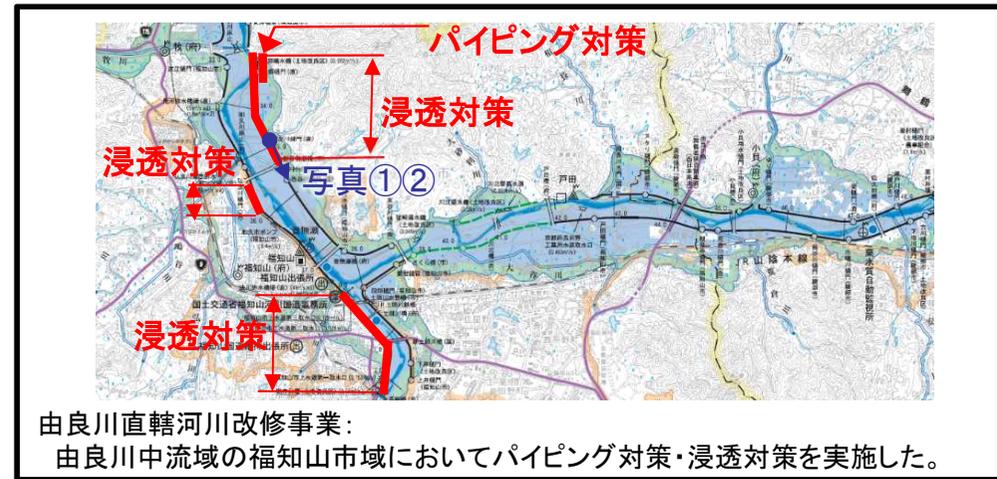
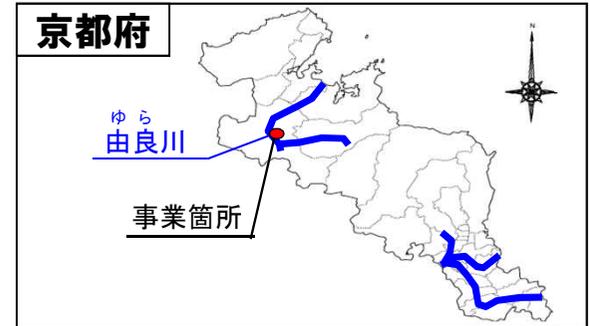


(事業前)①

一枚法・緑化



(事業後)②



由良川直轄河川改修事業：
 由良川中流域の福知山市域においてパイピング対策・浸透対策を実施した。

● 景観形成の目標像

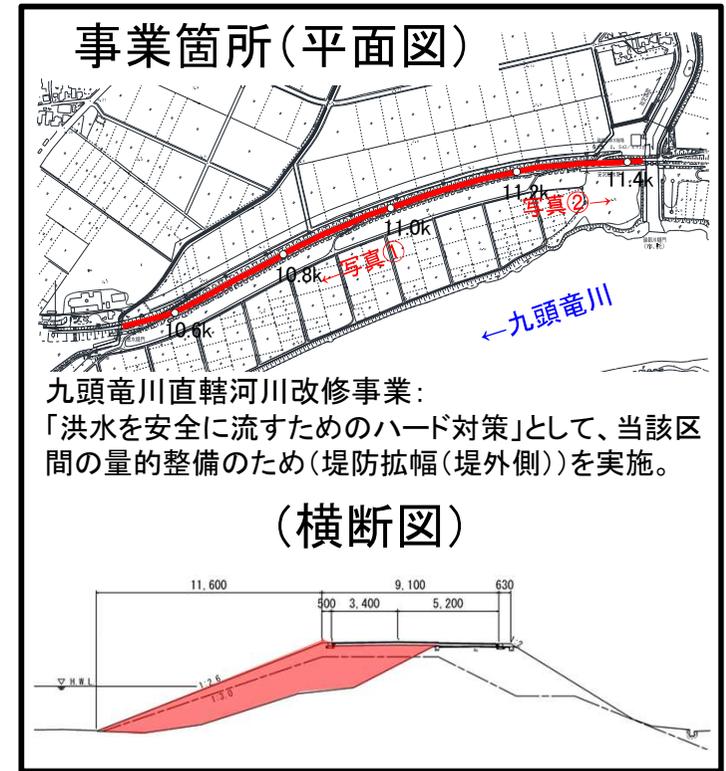
河川及び周辺の自然景観と調和した河川空間

① 施設や空間の規模・形状・配置等の設定の考え方

整備による景観への影響を軽減するため、法面は既設の堤防になだらかにすりつけ、植生を行った。

② 細部設計、材料等の選定の考え方

周辺の自然景観と調和させるため、現況の法面と同等勾配とし、なだらかに擦り付ける。



(事業前)



(事業後)



張芝工を実施し、整備による景観への影響を軽減



現況の法面と同等勾配とし、周辺の自然景観と調和

● 景観形成の目標像

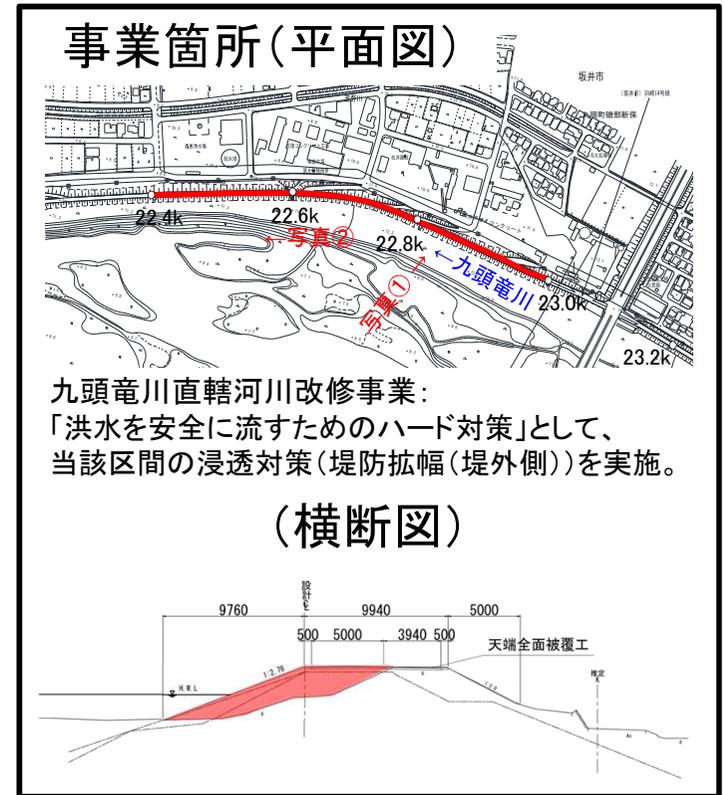
河川及び周辺の自然景観と調和した河川空間

① 施設や空間の規模・形状・配置等の設定の考え方

整備による景観への影響を軽減するため、法面は既設の堤防になだらかにすりつけ、植生を行った。

② 細部設計、材料等の選定の考え方

周辺の自然景観と調和させるため、現況の法面と同等勾配とし、なだらかに擦り付ける。



張芝工を実施し、整備による景観への影響を軽減



現況の法面と同等勾配と周辺の自然景観と調和

● 景観形成の目標像

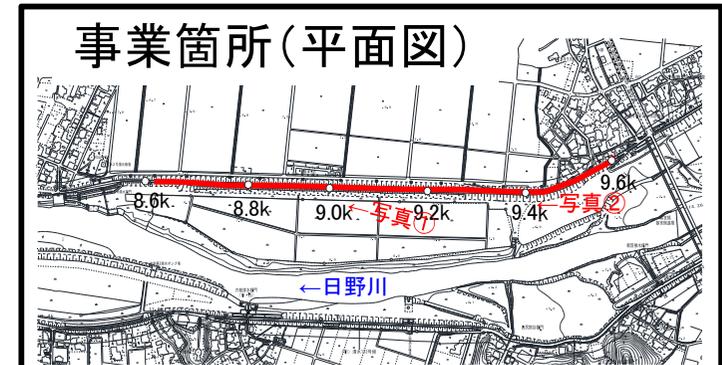
河川及び周辺の自然景観と調和した河川空間

① 施設や空間の規模・形状・配置等の設定の考え方

整備による景観への影響を軽減するため、法面は既設の堤防になだらかにすりつけ、植生を行った。

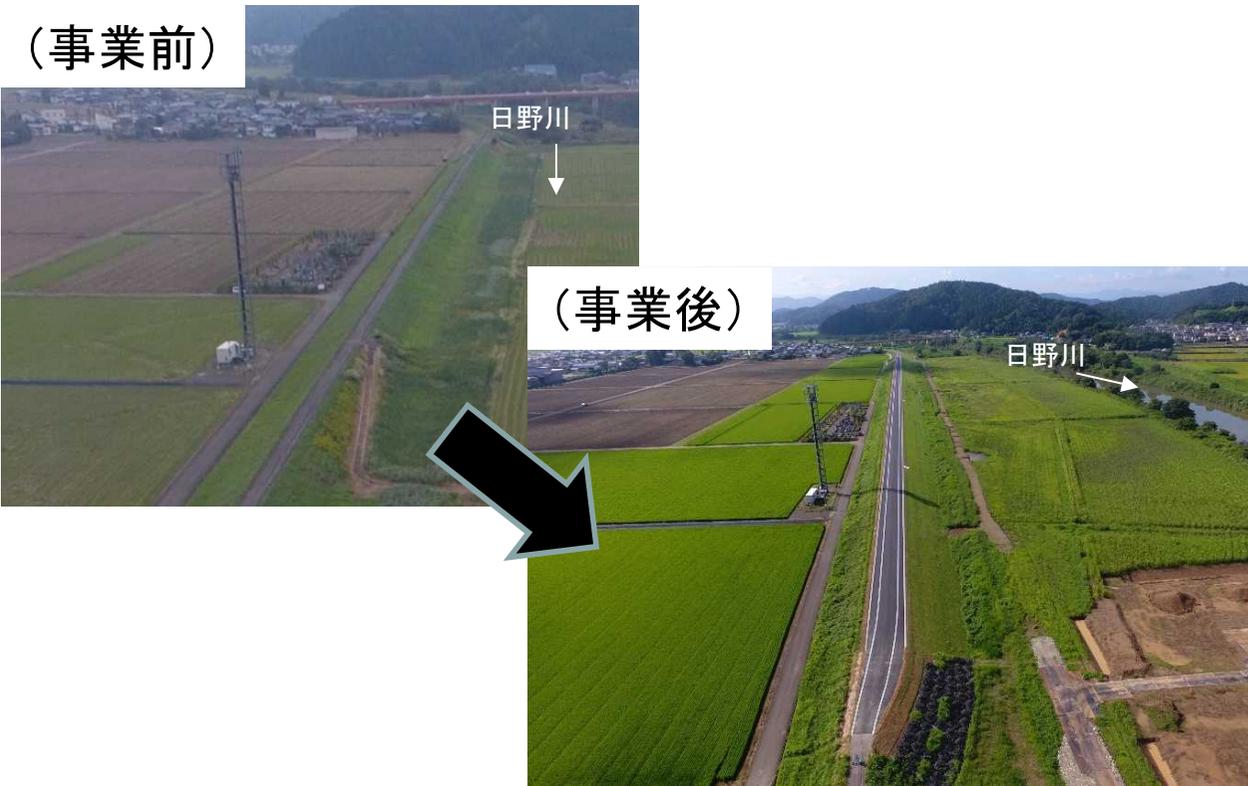
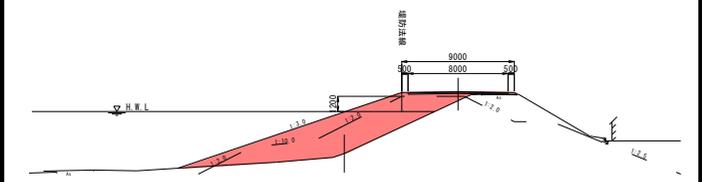
② 細部設計、材料等の選定の考え方

周辺の自然景観と調和させるため、現況の法面と同等勾配とし、なだらかに擦り付ける。



九頭竜川直轄河川改修事業：
「洪水を安全に流すためのハード対策」として、当該区間の量的整備のため(堤防拡幅(堤外側))を実施。

(横断図)



張芝工を実施し、整備による景観への影響を軽減



現況の法面と同等勾配とし、周辺の自然景観と調和

【室生口砂防堰堤】

●景観形成の目標像

周辺の自然景観に調和した砂防事業

→紀伊山系の自然景観に調和する砂防空間を目指す。



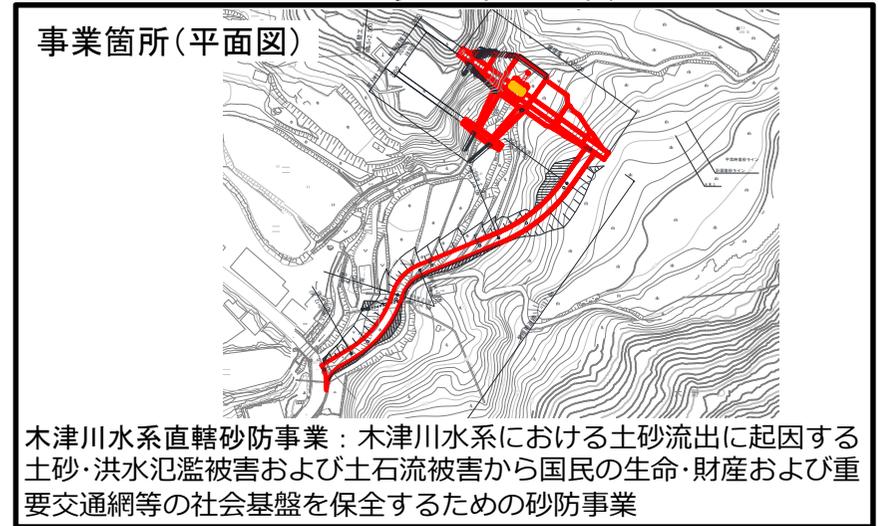
①施設や空間の規模・形状・配置等の設定の考え方

周辺には、住宅地や自然豊かな木津川水系の風景が存在しており、周囲との調和が図れるように留意した。

また、地域住民の視点場からの見え方にも配慮した。

②細部設計、材料等の選定の考え方

遠景だけでなく近景においても周辺景観と違和感を少なくするため、化粧型枠を用いた修景を施した。



(事業前)



(事業後)



● 景観形成の目標像

遠くに臨む神鍋高原や円山川、但馬地域屈指の穀倉地帯である高生平野などの良好な自然景観と融和した道路

① 施設や空間の規模・形状・配置等の設定の考え方

トンネル構造を採用することにより、長大な法面の出現や大規模な地形変更を回避する。

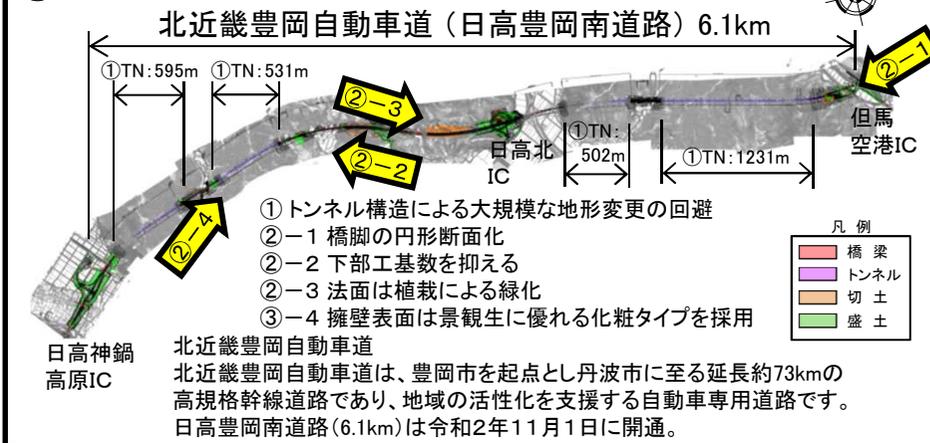
② 細部設計、材料等の選定の考え方

- 1 橋脚の円形断面化の採用により、大規模構造物の圧迫感の低減を図る。
- 2 下部工基数を抑えることで、眺望阻害への配慮を行う。
- 3 法面は周辺の景観に配慮した植栽による緑化を行う。
- 4 擁壁表面は景観生に優れる化粧タイプ等、現地に応じたブロックの選定をする。

③ コスト縮減、費用対効果を考慮した整備の考え方

切土盛土のバランスをとることでコスト縮減を図りつつ、法面の縮小化に務める。

① 平面図



②-1



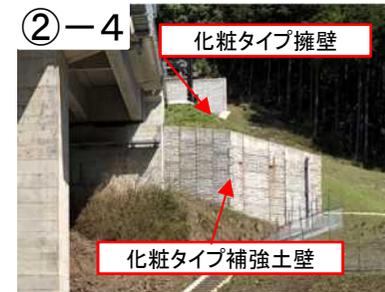
②-2



②-3



②-4



(事業前)



(事業後)



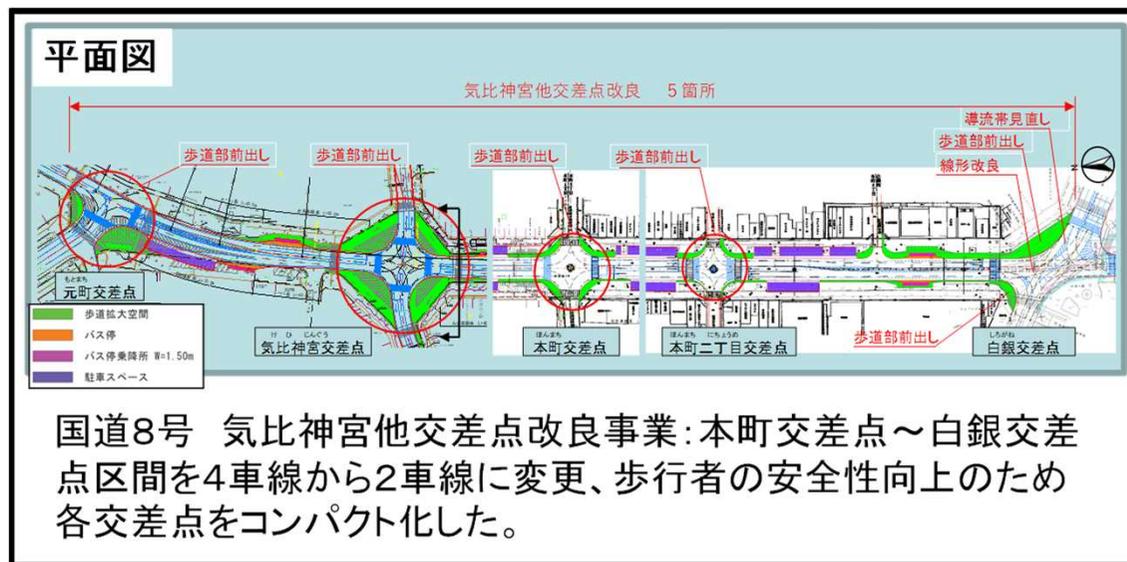
位置図



● 景観形成の目標像

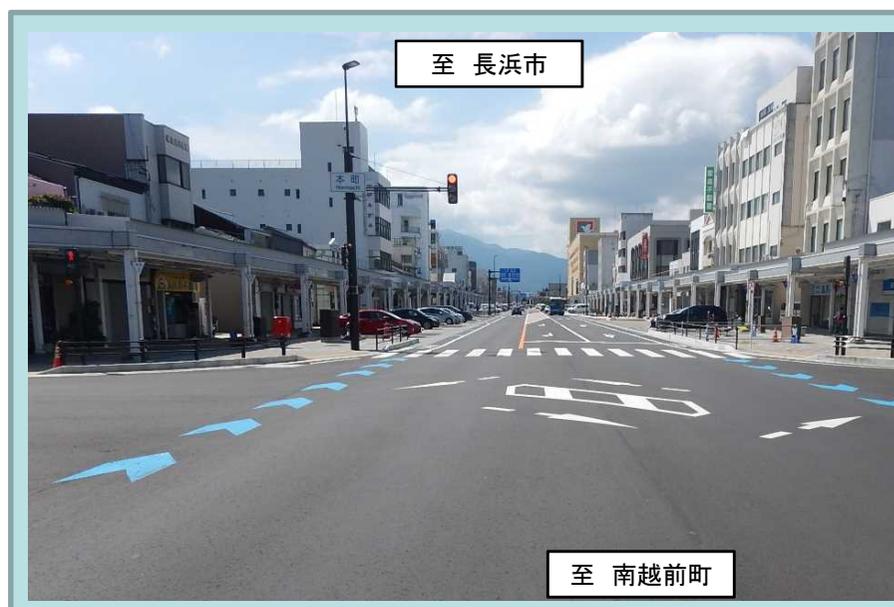
自然的な景観特性を有する地域に調和した道路空間の形成

- ① 施設や空間の規模・形状・配置等の設定の考え方
統一感のある連続的な空間を形成するため、「景観配慮型防護柵のマスタープラン」に基づく防護柵を選定し、存在感の低減、人との親和性に配慮したデザインでシンプルな形状とした。
- ② 細部設計、材料等の選定の考え方
周辺の景観と調和するため、防護柵の色彩を周辺の景観と調和する色彩とした。



(事業後)

(事業前)



●景観形成の目標像

守口市の大日駅前整備事業の一部として位置けされており、景観を損なわないような形状を目標とする。

①施設や空間の規模・形状・配置等の設定の考え方

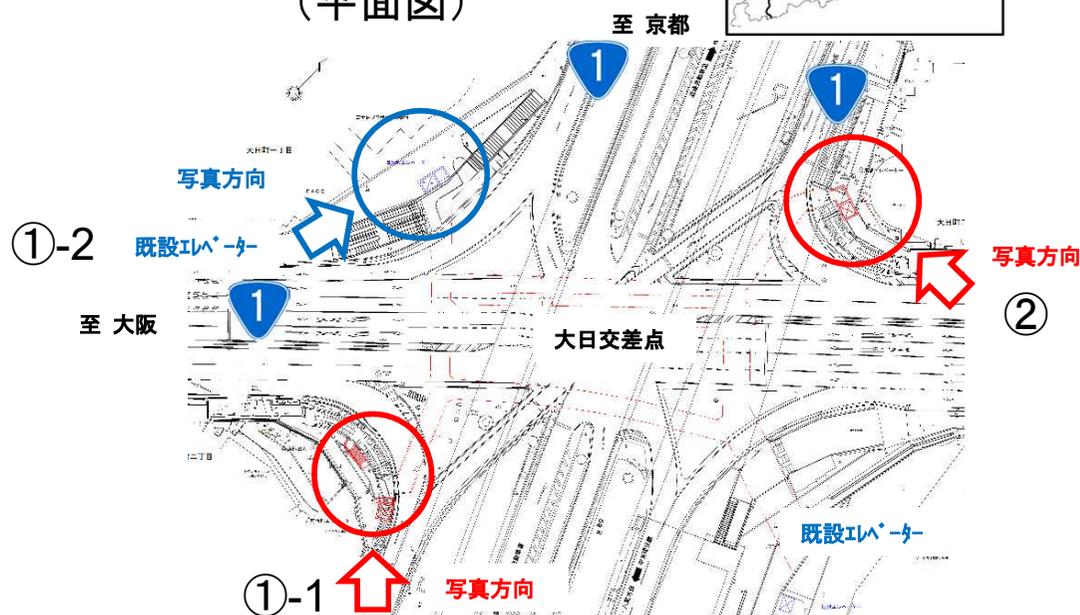
大日交差点周辺地区バリアフリー協議会での検討結果を踏まえ、既設エレベーターの色彩と整合させるように考慮した。

②細部設計、材料等の選定の考え方

生活関連施設近辺の主要交差点に設置するため、景観が極端に変わることはないよう既設昇降施設や構造物に合わせるような材料を選定。



(平面図)



(事業前)



(事業後)

①-1



①-2



②



● 景観形成の目標像

地域の幹線道路と中心商業地との調和を図り、景観に配慮した良好な道路空間を形成する。

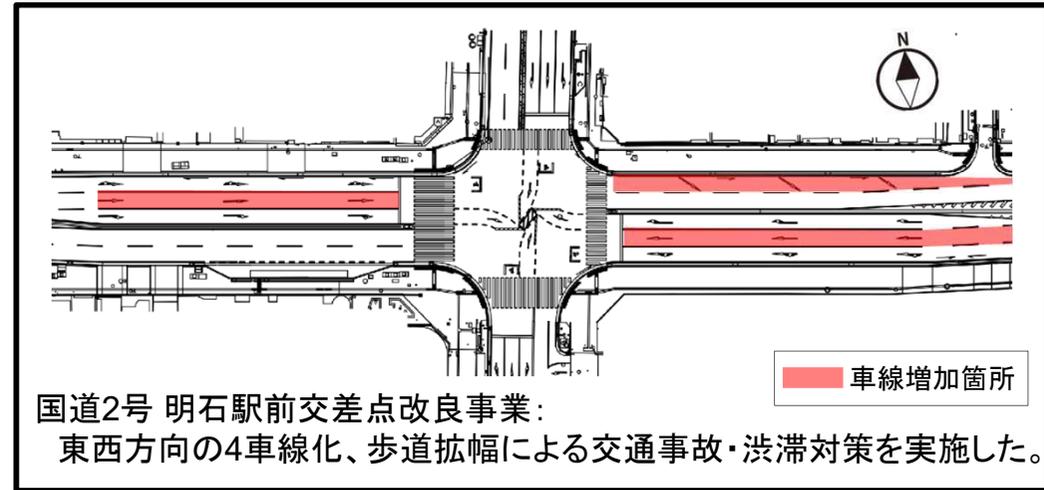


① 施設や空間の規模・形状・配置等の設定の考え方

防護柵が景観を阻害しないようにするため、出来るだけ部材構成をシンプルにし、連続性を感じさせると共に道路上からみて透過性のある防護柵を選定した。

② 細部設計、材料等の選定の考え方

周辺の景観と調和させるため、防護柵や標識支柱等はダークブラウンに統一した。



(事業後)

(事業前)



●景観形成の目標像

・周辺景観になじむような、幹線道路空間を形成

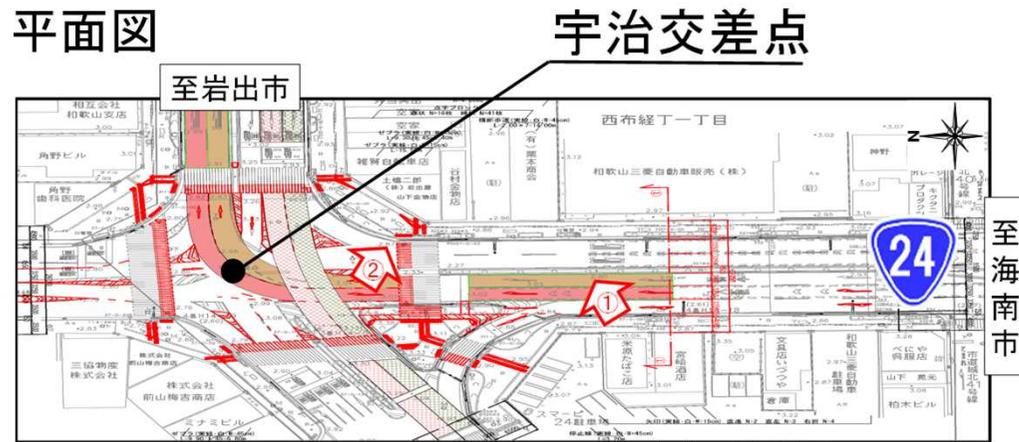
①施設や空間の規模・形状・配置等の設定の考え方

・統一感のある連続的な空間を形成するため、「景観に配慮した防護柵の整備マスタープラン(案)」に基づく防護柵を選定し、存在感の低減、人との親和性に配慮したデザインでシンプルな形状とした。

②細部設計、材料等の選定の考え方

・横断防止柵は、周辺の景観と調和する色彩(ダークブラウン)とした。

位置図



(事業前)

(事業後)



● 景観形成の目標像

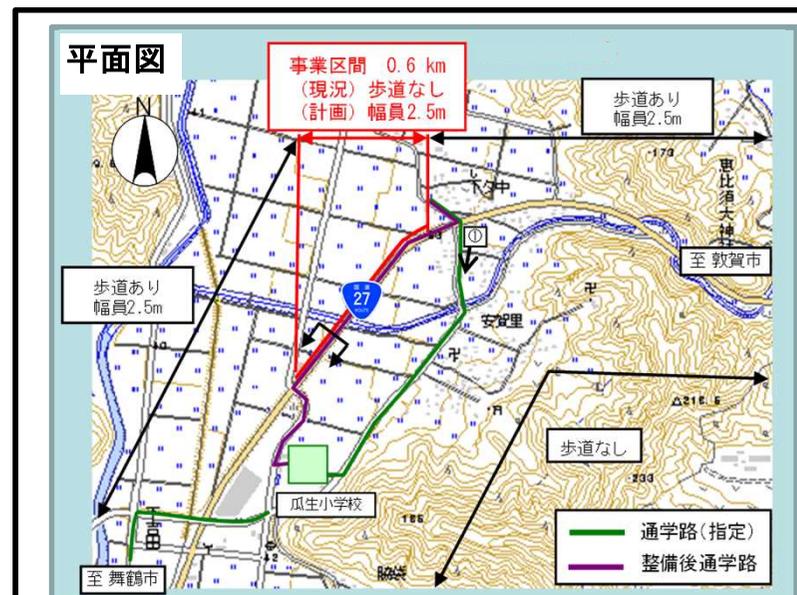
自然的な景観特性を有する地域に調和した道路空間の形成

① 施設や空間の規模・形状・配置等の設定の考え方

統一感のある連続的な空間を形成するため、「景観配慮型防護柵のマスタープラン」に基づく防護柵を選定し、存在感の低減、人との親和性に配慮したデザインでシンプルな形状とした。

② 細部設計、材料等の選定の考え方

周辺の景観と調和するため、防護柵等の色彩を周辺の景観(既設橋梁)と調和、地元から明るい色を採用して欲しいとの要望があり現在の色彩とした。



国道27号 下夕中～安賀里地区歩道整備事業：
安全・安心な歩行空間を確保するため歩道整備をした。



(事業後)

(事業前)



● 景観形成の目標像

自然的な景観特性を有する地域に調和した道路空間の形成

① 施設や空間の規模・形状・配置等の設定の考え方

統一感のある連続的な空間を形成するため、「景観配慮型防護柵のマスタープラン」に基づく防護柵を選定する。

② 細部設計、材料等の選定の考え方

転落防止柵、照明灯は、透過性への配慮、存在感の低減、人との親和性に配慮した色彩を検討したが、地元協議の結果、既設の柵との連続性及び透過性を確保するため新設する柵はシンプルな形状(標準品)を採用した。

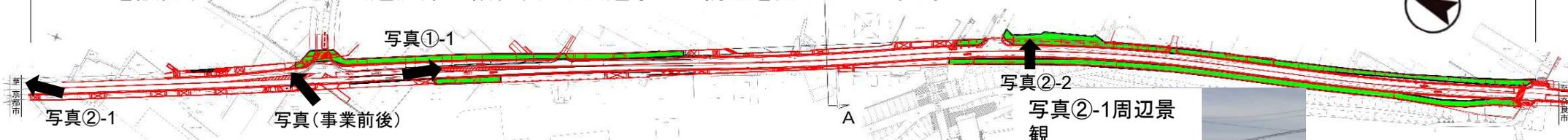
位置図



歩道整備 L=940m

【歩道整備事業】

当該箇所は、市道やすらぎ回廊線が取付く計画であり、交通量の増加が見込まれるが、下り線に歩道が整備されておらず、歩行者の安全が確保されていない状況となっており、既設歩道の拡幅及び歩道を新設することにより、安全で安心な歩行空間の確保を図るものである。また、右折レーンを設置することにより、交通渋滞の緩和、及び交通事故の防止を図るものである。



(事業後)

(事業前)



写真①-1連続的な空間の形成状況



写真②-2標準品の選定状況



●景観形成の目標像

周辺の市街地景観と統一感を図った歩道整備

①施設や空間の規模・形状・配置等の設定の考え方

統一感のある連続的な空間を形成するため、「景観配慮型防護柵のマスタープラン」に基づく防護柵を選定する。

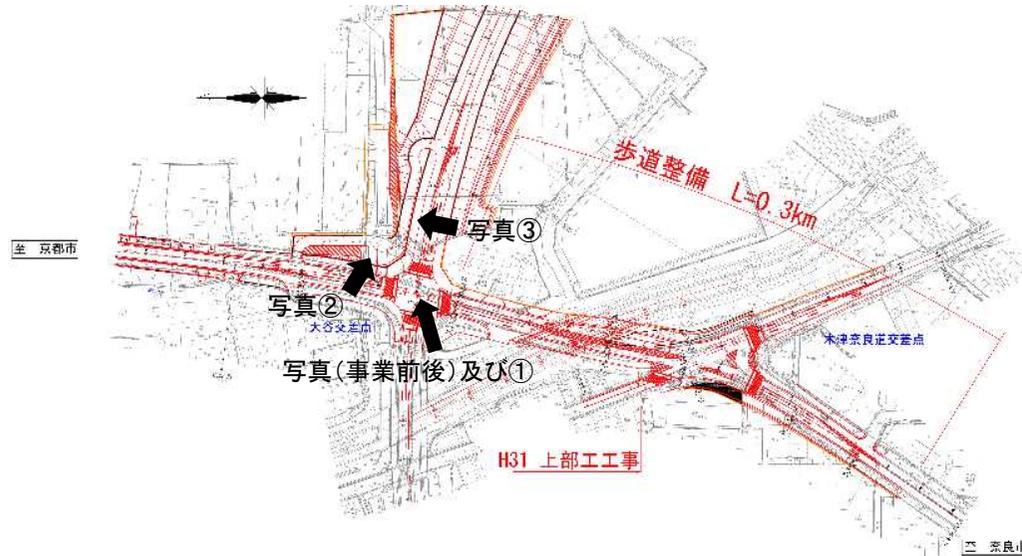
②細部設計、材料等の選定の考え方

転落防止柵、照明灯の色彩は、周辺の景観と調和するダークブラウン等とする。

③コスト縮減、費用対効果を考慮した整備の考え方

コスト縮減を図るため、シンプルな形状(標準品)を選定する。

位置図



【歩道事業】

当該箇所は国道24号と国道163号が交わる箇所で、将来、木津東バイパスが取り付く予定であり、更なる交通量の増加が予想されているが、歩道が未整備であるため非常に危険な状況なため、安全で安心な歩行空間を確保するものである。

(事業前)



(事業後)

写真①連続的な空間の形成状況



写真②周辺の景観に配慮した防護柵



写真③標準品の選定状況



●景観形成の目標像

・市内の住居密集地区の景観に合致した道路空間の形成

①施設や空間の規模・形状・配置等の設定の考え方

・前後歩道整備区間の連続性を考慮し、歩道舗装は黒舗装で整備した。

②細部設計、材料等の選定の考え方

・歩道未設置のためガードレールによる歩車分離としていた箇所を歩車道境界ブロックに変更することで景観性に配慮した。

位置図



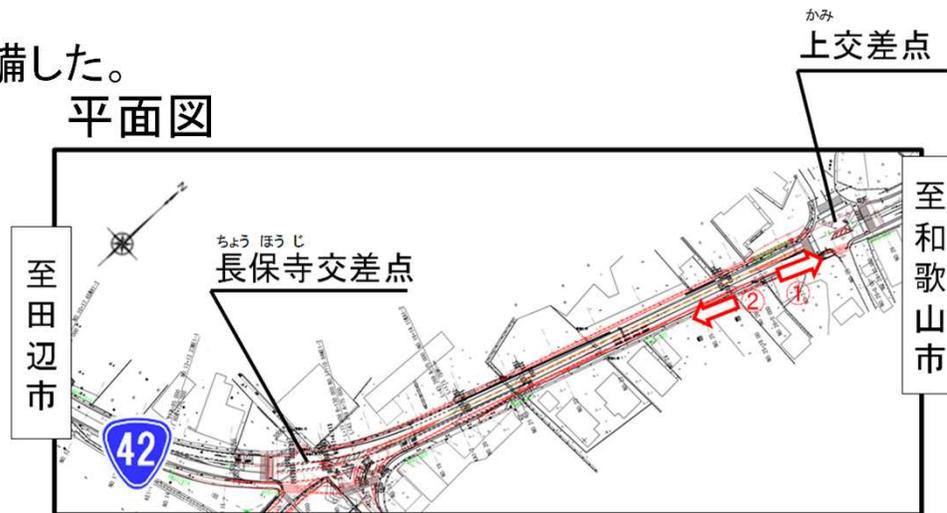
(事業前)



(事業後)



平面図





● 景観形成の目標像

周囲の景観との調和を考慮

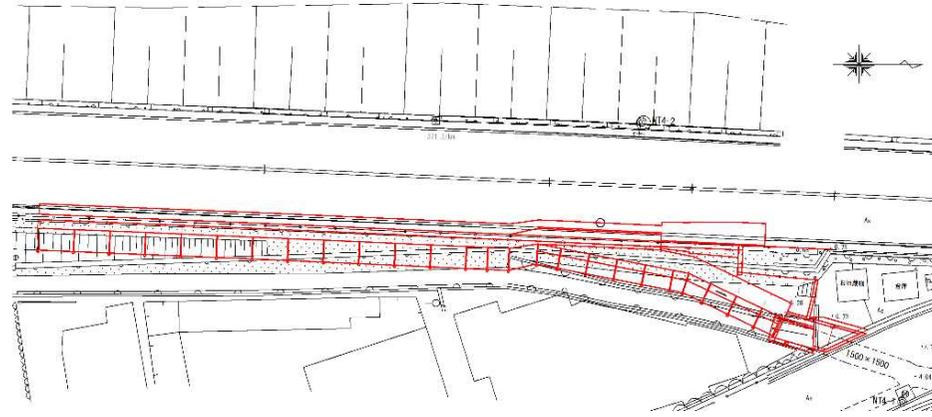
① 施設や空間の規模・形状・配置等の設定の考え方
色彩的に周辺環境に良くなじむこと。

② 細部設計、材料等の選定の考え方

防護柵等は景観配慮色でガードレールではなく、透過性の高いガードパイプを採用した。

事業箇所(平面図)

富田地区歩道整備事業：
通学路区間で歩道未整備区間に張出歩道を整備する。



(事業前)



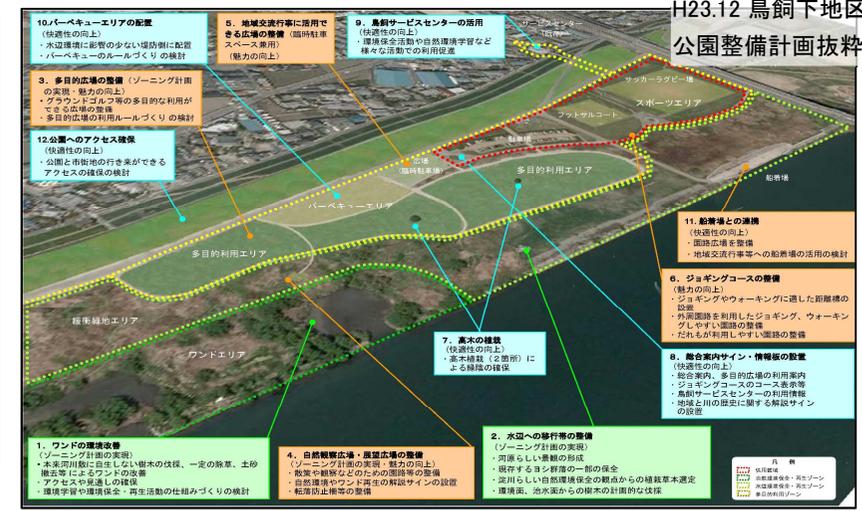
(事業後)



事業完了[様式-4] 鳥飼下地区公園整備事業

H23.12 鳥飼下地区公園整備計画抜粋

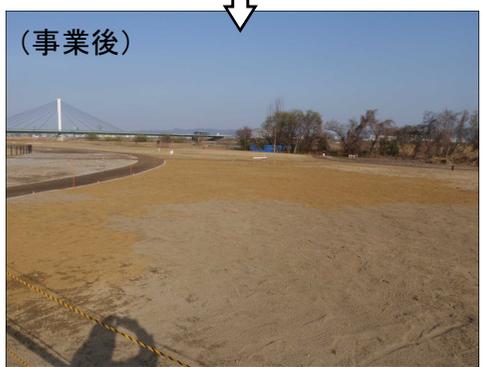
- 景観形成の目標像
 - ・天王山、男山、生駒山地などの山なみと一体的な水辺景観を楽しめる広場づくりを進める。
 - ・水辺への移行帯を整備し、水辺景観を楽しめる水辺の眺望空間の整備を進める。
- ① 施設や空間の規模・形状・配置等の設定の考え方
 - 山なみと一体的な水辺景観・眺望空間を確保するため、河道沿いにある樹林帯の間伐及び園路の整備を実施した。
- ② 細部設計、材料等の選定の考え方
 - 自然景観と調和させるため、園路・広場周りの使用材料は自然と調和した温かみのある色彩を採用した。



位置図



事業箇所



事業完了[様式-4] 島本地区公園整備事業

● 景観形成の目標像

- ・天王山、男山、生駒山地などの山なみと一体的な水辺景観を楽しめる広場づくりを進める。
- ・水辺へのアクセス性を改善し、気軽に水に親しめる空間づくりを進める。

① 施設や空間の規模・形状・配置等の設定の考え方

山なみと一体的な水辺景観・眺望空間を確保するため、河道沿いにある樹林帯の間伐を行い、多目的広場及び園路の整備を実施した。

② 細部設計、材料等の選定の考え方

自然景観と調和させるため、園路・広場周りの使用材料は自然と調和した温かみのある色彩を採用した。



事業箇所



(事業前)



(事業後)



(事業後)



(事業後)



(事業後)

